



撮影：松村大輔

＜招待講演＞15:45～17:00

真鍋 真 氏「恐竜の形の魅力」

国立科学博物館 名誉研究員
群馬県立自然史博物館 特別館長

始祖鳥が爬虫類と鳥類の中間の化石と位置付けられたのは1868年の「種の起源」の改訂版でした。その後、爬虫類と鳥類の近縁性は一度は否定されましたが、1970年代に手首などの類似性から鳥類の恐竜起源説が復活しました。同説が広く知られるようになったのには小説「ジュラシックパーク」、さらにはその映画化が大きく貢献しました。恐竜と鳥類の近縁性がさらに発信力をもつようになったのは、1996年に始まった「羽毛恐竜」の発見でした。あれから約30年、恐竜学の現在地を確認し、近未来を俯瞰してみましょう。



ティラノサウルス（左）とトリケラトプス（右）
6600 万年前の白亜紀最末期の北アメリカで、
しゃがんで身をひそめているティラノサウルスの
近くにトリケラトプスがやってきました。国
立科学博物館の常設展示の一部。（撮影：真鍋真）

形の文化会

2025/6/1 SUN



詳細は↑こちら

東京造形大学 2-102教室

当日はスクールバスは運行しません
JR 横浜線・相原駅から徒歩約 18 分

参加方法

形の文化会会員は無料（東京造形大学会場またはオンライン）
非会員は東京造形大学会場でのみ参加可能。

非会員は参加費 1000 円をご来場の際に会場受付にて現金で
お支払いください。現金以外のお支払い方法は非対応。



学生無料：会場受付にて本人学生証を提示してく
ださい。学生証不携帯の場合は適用されません。

<https://katachi-imagination.org>

この機会に形の文化会へのご入会もご検討ください。

お問い合わせ：粟野（メディアデザイン）awano@zokei.ac.jp

プログラム

- ・13:40-14:10 重信あゆみ（大阪大学）
「ホルスを抱くイシス図像の東アジアへの伝播とその受容（仮）」
- ・14:10-14:40 原田千夏子（中部大学民族資料博物館）
「雪舟の造形表現再考——空間の奥行きと時代性」
- ・14:40-15:10 王智恒（東京造形大学大学院）
「3DCG 布地シミュレーションにおける感覚閾値の定量化
——オンライン衣料 EC の各特性の質感最適提示」
- ・15:10-15:40 新井翼（VFX/CG アーティスト）
「現生生物の観察から古生物復元への応用について」
- ・15:45-17:00 招待講演・質疑応答

デザイン：細川真優（メディアデザイン3年）